

# 健康メモ

## 成人麻しんにご注意ください！

医療法人牛尾内科医院院長  
広島市医師会理事

牛尾 剛士

麻しんはいま  
や子供だけの病  
気ではありませ  
ん。国立感染症  
研究所によると



全国のはしか患者の報告数が今年に入って南関東を中心に流行の兆しが  
出ているとのこと。

年齢別では一〇代の若者による感  
染が全体の半数近くを占めており、  
感染者の半数以上が過去にワクチン  
の接種歴がなかったとのこと。

通常は一度流行すると数年は流行し  
なかったのですが、今年は昨年と流

行パターンが似ており新入学、就職  
で人の移動が活発になる時期に流行  
が再燃するのではないかと懸念され  
ているとのこと。この理由として  
は一〇歳から三〇歳までの麻しん

にかかりやすい集団の存在がありま  
す。実際昨年度はこの集団を中心と  
する流行がありました。この集団は  
昭和52年より定期接種が開始され  
た麻しんワクチンの接種が低いことや、  
麻しんワクチンの効果がそもそも不  
十分であったことなどが特徴として  
あげられます。麻しんをなくすため  
には予防接種率の向上だけではなく、  
入学、入社時の麻しんワクチン接種  
の効果検証が必要で、未接種者や効  
果不十分者を含めた方には再接種が  
必要になります。

感染形式は空気感染で、感染力は  
きわめて強く、免疫がない人が感染  
すると大多数が発症します。大人で  
は一人が一五―二〇人感染されると

いわれております。症状は感染約一  
〇日後より三八度の発熱や風邪症状  
を認め、その後二―三日症状が続い  
た後に高熱をとまなう全身性発疹を  
認めるようになります。中には咳、  
目の充血症状などの粘膜症状や罹患  
すると免疫低下も来しますので、肺  
炎、中耳炎などの合併症や脳炎も発  
症することがある厳しい疾病です。

麻しんの根本的な治療法はなく、  
対症療法のみです。このため麻しん  
にかかりにくくすることが重要で、  
ワクチン接種が必要となります。麻  
しんは大人がなると厳しいだけでな  
く、活動範囲も広  
く感染を拡大させ  
てしまいますので、  
新人が入社されて  
いる時期ですので  
会社内で流行が起  
こらないようにご  
用心！

